

# 林木遺伝資源情報

第10号 - 3 2006.9  
独立行政法人 林木育種センター



林木遺伝資源保存林シリーズ No.11

## カシ類の林木遺伝資源保存林

林木育種センター 関西育種場 上澤上 静雄・橋本 光司

### 1 はじめに

ブナ科(*Fagaceae*)の樹木は、ブナ、ミズナラのような落葉樹とカシ類、シイ類のような常緑樹に分けられます。カシ類はブナ科コナラ属(*Quercus*)の常緑樹の総称ですが、コナラ属にはクヌギ、コナラのような落葉樹も含まれています。カシ類の葉には表面に艶があり、いわゆる照葉樹林の重要な構成樹種となっています。

カシ類は、日本から台湾、中国南部にかけての暖温帯の海岸部から丘陵部に分布しています。日本では主に関東、中部地方以南に分布しており、宮城県が北限とされています。海岸線ではウバメガシ(*Q.phillyraeoides*)、平野部ではアラカシ(*Q.glauca*)、山地ではアカガシ(*Q.acuta*)、中山間地域ではウラジロガシ(*Q.glauca*)などがよく見られます。奄美大島から西表島にかけてはオキナワウラジロガシ(*Q.miyagii*)が分布しています。その他、シラカシ(*Q.myrsinaefolia*)、イチイガシ(*Q.gilva*)、ツクバネガシ(*Q.sessilifolia*)、ハナガガシ(*Q.hondae*)などが日本に分布していますが、ハナガガシは四国と九州の一部地域に限って分布し、絶滅危惧種に指定されています。現在林木育種センターではその保存に努めています。

カシが「櫟」と書くようにその材は非常に強く、耐久性もあることから、鋏、ハンマー等道具類の柄や建築用材として使われています。ウバメガシは高級炭として名高い備長炭の原料として有名です。

カシ類は人々の生活する場所に分布していたことから、古くから伐採利用され人々の生活を支えてきました。現在は社叢林や丘陵地斜面の限られた場所に天然林が残っているだけで、カシ類の遺伝資源の保存は重要な課題となっています。

### 2 林木遺伝資源保存林の現況

カシ類の林木遺伝資源保存林について、設定箇所の位置図を図 - 1 に、育種基本区別森林管理局別の設定箇所数と面積を表 - 1 に示しました。

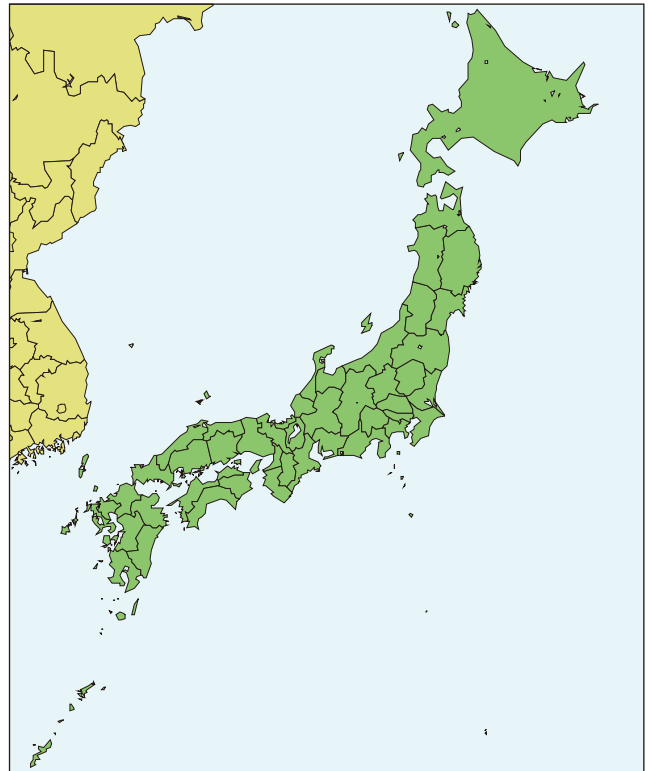


図 - 1 カシ類の林木遺伝資源保存林位置図

表 - 1 カシ類の林木遺伝資源保存林の設定箇所数と面積

育種基本区	森林管理局	箇所数	面積(ha)
東北	東北森林管理局	1	11.9
関東	関東森林管理局	1	3.2
	中部森林管理局	1	10.4
関西	近畿中国森林管理局	4	145.7
	四国森林管理局	2	38.1
九州	九州森林管理局	17	687.1
合 計		26	896.4
全林木遺伝資源保存林に占める割合		7.9%	9.7%

設定箇所数は全育種基本区で26箇所ですが、暖帯性の樹種であることから、九州育種基本区に箇所数でその65%が設定されています。指定されている保存樹種はアカガシ、イチイガシ、ウラジロガシ、シラカシ、アラカシ、ウバメガシ、オキナワウラジロガシの7樹種ですが、一つの保存林で2種類以上

のカシ類が保存対象樹種となっている箇所や、同じブナ科の常緑樹であるシイ類がカシ類とともに保存対象樹種になっている保存林も多く見られます。

### 3 代表的なカシ類の林木遺伝資源保存林

以下に代表的なカシ類の林木遺伝資源保存林を紹介します。

#### [ 青森カヤ・ウラジロガシ 5 林木遺伝資源保存林 ]

カシ類の保存林としては最北に位置し、ウラジロガシの北限として大正 8 年に学術参考保護林に指定され、昭和 61 年には林木遺伝資源保存林として指定されました。カヤ、モミ、ケヤキが上層木を占めますが、ウラジロガシが平均胸高直径 16cm、平均樹高 11m で全高木本数の約 50% を占めています。稚幼樹の発生も 1 ha 当たり 27,165 本あり、更新状況も良好です。

所在	宮城県角田市山田 北緯 37° 57 ' 東経 140° 44 '	仙台森林管理署 525 い 11、 い 12、ろ 林小班
地況	面積: 11.94ha 標高: 160m	温量指数 79 降水量 1,200mm/年
林況	立木 ウラジロガシ: 平均胸高 直径 16cm、平均樹高 11m 478 本・60m <sup>3</sup> /ha	稚幼樹 ウラジロガシ: 27,165 本/ha



写真 - 1 青森カヤ・ウラジロガシ 5 林木遺伝資源保存林

#### [ 高知ウバメガシ 3 林木遺伝資源保存林 ]

海岸部南側斜面に位置するウバメガシの天然林で、ウバメガシは、平均胸高直径 16cm、平均樹高 11m、本数割合で 55%、材積割合で 84% を占め、ほぼ純林を形成しています。胸高直径 34cm、樹高 16m というウバメガシではかなり大きな個体も見られます。

所在	高知県幡多郡大月町 北緯 32° 50 ' 東経 132° 40 '	四万十森林管理署 103 に 林小班
地況	面積: 1.47ha 標高: 30m	温量指数 136 降水量 2,000mm/年
林況	立木 ウバメガシ: 平均胸高 直径 16cm、平均樹高 11m 2,040 本・271m <sup>3</sup> /ha	稚幼樹 ウバメガシ : 90,000 本/ha



写真 - 2 高知ウバメガシ 3 林木遺伝資源保存林

#### [ 熊本アカガシ 3 林木遺伝資源保存林 ]



写真 - 3 熊本アカガシ 3 林木遺伝資源保存林

アカガシは、平均胸高直径 28cm、平均樹高 11m、本数割合で 22%、材積割合で 32% を占めていますが、上層木にはイヌシデ、スダジイ、タブノキ等が見られます。標高が 650m と高く、温量指数も 89 と暖温帯の下限に近い環境ですが、常緑広葉樹林がよく発達しています。

所在	佐賀県唐津市七山白木 北緯 33° 28 ' 東経 130° 06 '	佐賀森林管理署 124 り、 よ 林小班
地況	面積: 23.24ha 標高: 650m	温量指数 89 降水量 2,750mm/年
林況	立木 アカガシ: 平均胸高 直径 28cm、平均樹高 10m 407 本・140m <sup>3</sup> /ha	稚幼樹 アカガシ : 7,500 本/ha